

訃報

名誉教授 東市郎氏（享年 87 歳）

名誉教授 東市郎先生が令和 5 年 1 月 27 日（金）午前 6 時 45 分にご逝去されました。

東市郎先生は、昭和 10 年 12 月 1 日石川県輪島市に生まれ、昭和 33 年 3 月富山大学薬学部を卒業後、昭和 35 年 3 月九州大学大学院薬学研究科修士課程を修了し、昭和 40 年 11 月九州大学大学院医学研究科にて薬学博士を取得されました。その間、昭和 37 年 11 月に大阪大学助手医学部内科学第三講座研究員となられ大阪に移動し、昭和 43 年 9 月～44 年 9 月世界保健機構(WHO)より Senior Research Training Grant を得てパリ大学理学部生化学研究所に出張、さらに、昭和 47 年 4 月～48 年 3 月と昭和 52 年 7 月～52 年 9 月にアメリカ合衆国国立衛生研究所(NIH)の Visiting Scientist として国立アレルギー感染症研究所(NIAID)に出張され、

昭和 53 年 7 月に帰国して、大阪大学医学部内科学第三講座講師となりました。その後、昭和 54 年 1 月に北海道大学免疫科学研究所化学部門の教授に赴任されました。

東市郎先生は、長年にわたり細菌菌体成分をはじめとする種々の免疫増強剤（免疫アジュバント）の開発に関する研究を実施されるとともに、生体防御機構増強のための基礎的な研究に取り組まれました。特に結核菌菌体成分のうち、細胞壁骨格が主たる免疫強化活性因子であることを明らかにするとともにその化学構造と免疫増強活性の詳細を解明し、これらの研究成果は 500 報ほどの英文学術論文と 100 報ほどの著書に発表されました。東市郎先生は、これらの研究を通じて免疫アジュバントを用いる疾患の予防と治療との現在の自然免疫学に通じる学問領域である「免疫薬理学」のパイオニアとして関係学会の発展に寄与されました。

教育面でも、本学理学研究科化学専攻の協力講座として 20 年間にわたり大学院生を含め 100 人以上の若手研究者の教育と研究指導を実施されました。昭和 63 年 4 月から 2 期 6 年にわたり、免疫科学研究所長として、さらに、平成 6 年 4 月から 2 期 3 年にわたり触媒化学研究センター長をお務めになり、同センターの時限到来に向けての発展的な改組計画の策定を実施し触媒科学研究所の礎を作られました。その後、平成 9 年 4 月より本学副学長として、企画、研究、点検評価、施設、国際交流、留学生分野を担当し本学の改革と充実に努められました。このように東一郎先生は、11 年間の長きにわたり、本学の部局長、評議



員として全学の管理運営に尽力なさいました。

また、免疫科学研究所が改組した遺伝子病制御研究所には、自身の私財から「東市郎基金」を設立し、当該研究所の若手研究者が海外学会参加する際の旅費、宿泊費の補助事業を平成28年度より、行って来られ、現在も続いています。

東市郎先生の長年にわたる膨大な研究成果と教育への貢献に敬意を表し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。